日本脳神経外科学会第 85 回学術総会第 32 回 FD コースで病院 BCP について講演しました(2026/10/23)

テーマ： 災害時の病院機能維持 -BCP は機能維持のたたき台-
場所：ニューオータニイン札幌（札幌市）

2026 年 10 月 23 日(金)、札幌市のニューオータニイン札幌で開催された日本脳神経外科学会第 85 回学術総会 第 32 回 FD コースにおいて、佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が「災害時の病院機能維持　-BCP は機能維持のたたき台-」というタイトルで、病院 BCP/BCM について講演しました。

日本脳神経外科学会はその名のとおり、日本の脳神経外科領域研究・診療、専門医養成・生涯教育を全国規模で支える学会で、会員総数は 10,875 人、認定されている脳神経外科専門医は 8,259 人を数える大きな組織です。脳神経領域の外科診療にはライフラインに依存する精緻な診断機器や手術機械が必要で、脳神経疾患は生命・機能に直結する重大な疾患であることから、災害時であっても一時たりとも治療を中断することができません。診療継続に関する気運が高まっています。

佐々木准教授は午前 7 時 20 分から開催された FD コースの講師として招かれ病院 BCP/BCM に関して講演を行いました。FD コース受講は指導医申請に必要な単位となることから、早朝にもかかわらず会場には多くの脳神経外科医が集まりました。

講演の冒頭、佐々木准教授が受講者に病院 BCP 策定状況、BCP 策定関与について質問すると、約半数の施設で BCP が策定済、また受講者の約 1/4 が BCP 策定に携わっていました。意外に多くの脳神経外科医が病院の機能維持に携わっていたことから、会場からはざわめきが聞こえました。講演後の質疑応答では、「開頭手術中に停電を来した場合はどうしたらよいか？そのための訓練はどのように設計したらよいか？」「電気や水といった、病院の裏方機能がいかに重要で、資源調査のようなステップを踏んで BCP を策定していく必要性を理解することができた」などの声があがっていました。



病院 BCP の策定状況について問う
佐々木准教授



会場には早朝から多くの
脳神経外科医が集まった

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）